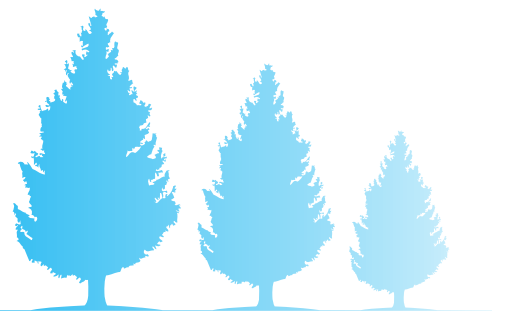
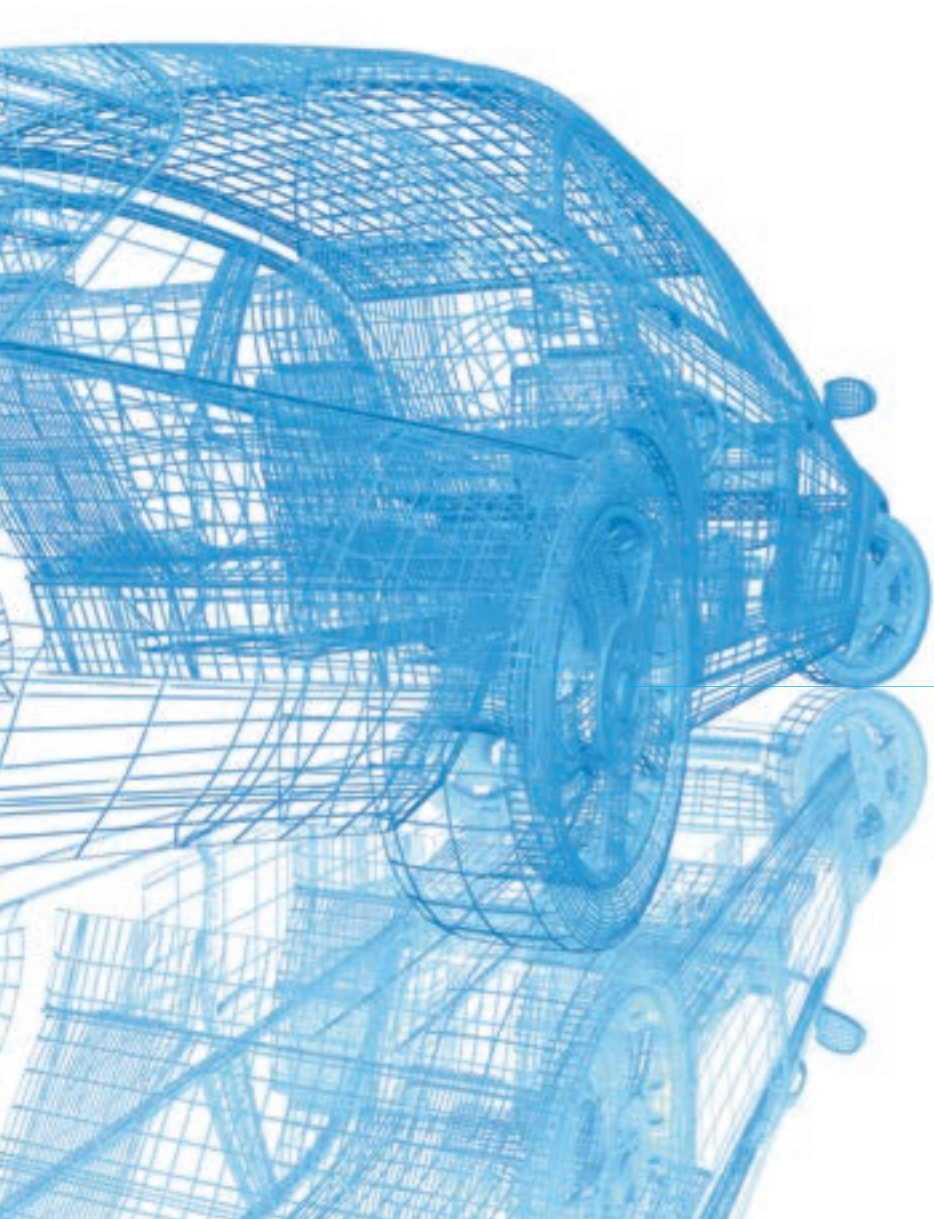




CSR報告書2015

株式会社ジーテクト



未来の地球のために、 ジーテクトは歩みを進めます。

社是

人間性尊重

技術革新

堅実経営

行動指針

- 愛情と相互信頼をモットーに自己啓発に努めよう
- 先進技術を追求し良質廉価な製品を提供しよう
- 自主性をもち英知と機敏さで社会に貢献しよう

経営ビジョン

先進技術と良質廉価技術の融合で低炭素社会に
貢献し、世界中のお客様に満足される企業

CONTENTS

イントロダクション

社是・行動指針・経営ビジョン	01
目次・編集方針	02
トップメッセージ	03

会社情報

会社概要・主要部品・グローバルネットワーク	05
CSR基本方針	06

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス	07
内部統制・コンプライアンス・社員コメント	08
リスクマネジメント・株主・投資家とのコミュニケーション	09

情報管理

情報セキュリティの目的・基本方針・教育	10
---------------------	----

安全衛生

安全衛生方針・避難訓練など	11
---------------	----

品質

品質方針・品質保証体制など	12
お客様満足向上の方針・購買・CSR調達方針・社員コメント	13

人権・労働

人材育成基本方針・ダイバーシティ・社員コメントなど	14
---------------------------	----

環境

環境理念・環境方針・社員コメント	15
環境マネジメント体制	16
環境ロードマップ・マテリアルフロー	17
データ	18
環境改善取り組み	19
生物多様性の取り組み	20

社会貢献

社会や地域への貢献活動・海外での取り組みなど	21
------------------------	----

第三者意見

第三者意見	22
-------	----

編集方針

発行目的

ジーテクトは、「G-TEKTフィロソフィー」の実践にむけた取り組みを、ステークホルダーの皆さまに簡潔に分かりやすくお伝えするために、当社初となるCSR報告書を発行いたします。非財務情報開示による企業価値の向上をめざし、当社のCSR活動について理解を深めていただくことを目的としています。

当社のCSR報告書は、事業活動のなかで重要となる独自のCSRテーマを定め、その取り組み報告をまとめています。ステークホルダーの皆さまとの重要なコミュニケーションツールのひとつに位置づけ、今後さらなる充実に努めてまいります。

参考にしたガイドライン

- ・GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)
ただし、一部で過去の取り組みや直近の活動も記載しています。

対象範囲

日本国内の活動を中心に、海外子会社の取り組みを含んで報告しています。

公開時期

2015年6月(次回予定2016年6月)

お問い合わせ先

ジーテクト株式会社 法務部
〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
大宮JPビルディング18階
TEL 048-646-3400(代)



top message
トップメッセージ



自動車業界の一翼を担う 責任ある企業として

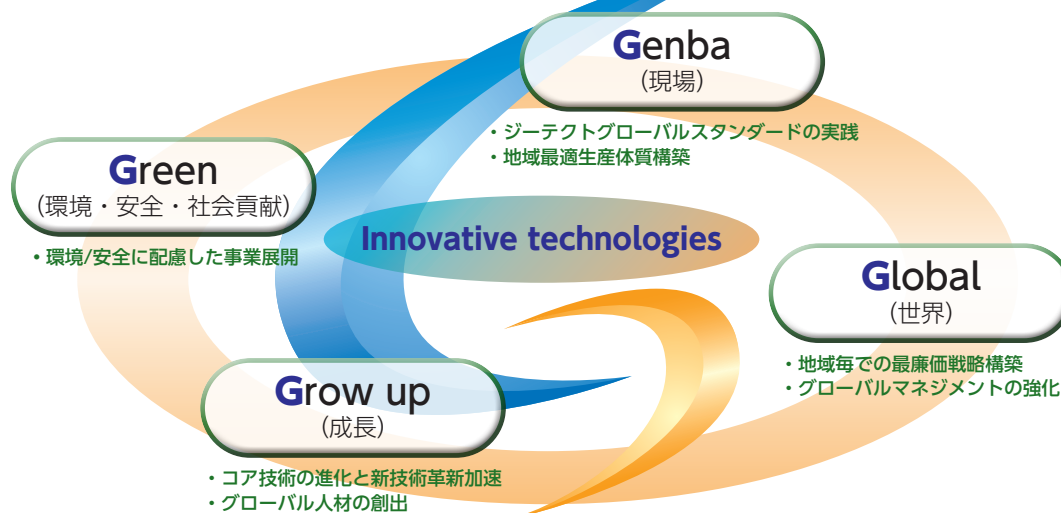
当社が身を置く自動車業界では、近年、加速するグローバル化に伴う顧客ニーズの多様化などにより、生き残りをかけた競争が激しさを増しております。このような競争環境の中で生き残るためには、一步先の状況を見据え、これまでにない革新的な武器を持ち、他の追随を許さないより競争力ある強靱な体質をつくり上げることはもちろんのこと、当社を取り巻くあらゆるステークホルダーの皆様の声に耳を傾け、50年先、100年先も存在を期待され、信頼され続ける企業として、企業価値の向上を目指し、持続的な成長を図っていかねばなりません。

当社の製品を納めるお客様に対しては、求められるものを高品質かつ適正な価格で、世界中、いつでも、必要なだけ、タイムリーに提供できなければなりませんし、株主・投資家の皆様に対しては、企業統治の充実により、事業活動の健全性、透明性を高め、積極的な情報開示や対話を図り、説明責任を果たしていかなければなりません。また、企業を動かしているのは、人であるとの認識のもと、働く者一人ひとりの人間性を尊重し、公平・公正で、伸び伸び働ける職場環境を確保していかなければなりませんし、緑あふれる地球を未来に残すため、地球環

2020年Vision G4-20(ジーフォー・トゥエンティ)

G4-20
(Twenty)

安全・環境に即した先進技術の追求を通じ
車体部品とミッション部品の専門メーカー
として**世界TOP**を目指す



行動要件…スピード&コミュニケーション+チャレンジ

境に配慮した事業活動にも取り組まなければなりません。

このような認識のもと、当社では「先進技術と良質廉価技術の融合で低炭素社会に貢献し、世界中のお客様に満足される企業」となることを目指し、2020年に向けた中長期Visionとして「G4-20」(ジーフォー・トゥエンティ)を掲げ、企業価値の向上に向けた様々な取り組みを推進してまいりましたが、今般、ステークホルダーの皆様へ、こうした活動を広くお伝えするため、CSRレポートとして発行させていただいた次第です。

引き続き、自動車業界の一翼を担う責任ある企業として、このCSR活動を通じ、ステークホルダーの皆様と共に、持続可能な社会の実現に貢献してまいりたいと存じますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

代表取締役社長

菊池 俊嗣



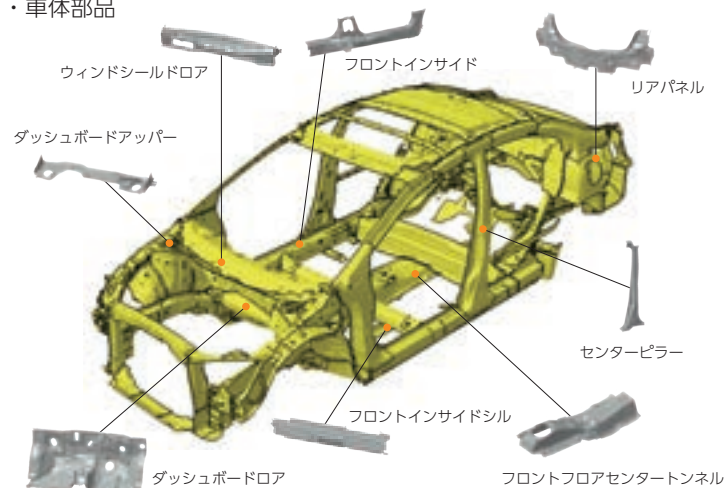
会社情報

会社概要

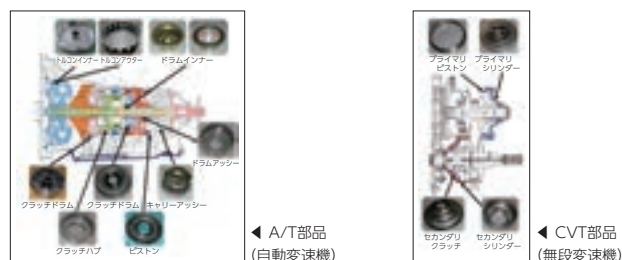
社 名	株式会社ジーテクト		
創 業	1947年4月1日		
設 立	1953年11月4日		
資 本 金	4,656,227,715円		
代 表 者	代表取締役社長 菊池俊嗣		
事業内容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売		
従業員数	連結 7,543人(国内1,195人) (2015年3月31日現在)		
売 上 高 (億円)	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
	1,545	1,815	1,938
経常利益 (億円)	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
	118	139	90

主要部品

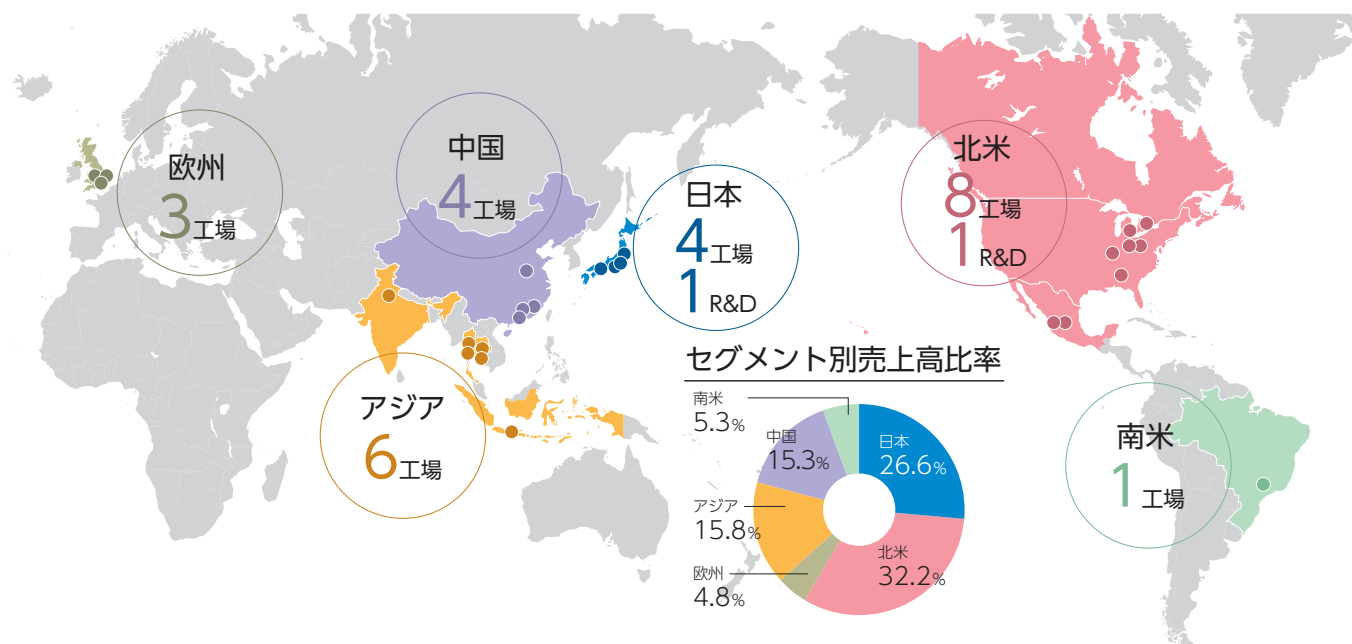
・車体部品



・トランスミッション部品



グローバルネットワーク





ジーテクトのCSR

CSR基本方針

当社は「道義的」「社会的」に責任が深まるなか、CSR活動を通じ社会と共に持続的成長をし、存在を期待される企業になる。

社会からの期待により果たすジーテクトの責任

4つの基本領域	テーマ	CSR
7つのCSRテーマに細分化 企業統治の充実により公正で透明な事業活動をする 安全で快適な環境により良質製品を提供する 人材を尊重し人権配慮と労働環境の改善をする 地球環境の保全と地域社会への貢献をする	コーポレートガバナンス	事業活動の透明性を高め積極的な対応と開示を心がけます。
	情報管理	機密管理体制を強化し信頼される企業風土を築きます。
	安全衛生	安全で快適な職場環境を構築いたします。
	品質	お客様のニーズを満足する信頼される製品を継続的に提供します。
	人権・労働	従業員の個性を尊重し、公平・公正で働きがいのある職場づくりに努めます。
	環境	地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。
	社会貢献	地域社会との共生で次世代へ引き継げる社会貢献を継続します。

ステークホルダーとのかかわり

当社のステークホルダーであるお客様、従業員、取引先、地域社会、株主・投資家の皆様に存在を永続的に期待され、信頼される企業であるために、当社社員が共有する行動指針として「わたしたちの行動指針」を制定し、社員一人ひとりが社会の一員として、自動車産業の一翼を担う企業の一員として、自覚を持って行動することを心がけています。

ステークホルダーに対する基本姿勢

当社製品の納品先であるお客様に対して、安心で安全な製品をお届けすることで、信頼されるパートナーであり続けます。

お客様

当社製品の納品先であるお客様に対して、欲しい物を欲しい時に欲しいだけお届けすることで信頼されるパートナーであり続けます。

地域社会

社会貢献活動への参加等を通じて積極的に地域住民との融合と調和を図り、相互理解に基づく良好な関係づくりを目指します。

従業員

人間性尊重の理念のもと、従業員一人ひとりが仕事にやりがいを感じ、いかなるハラスメントも許さない、安心、安全で生き生きとした職場づくりを目指します。

株主・投資家

迅速・公平な情報開示をモットーとして、株主・投資家と積極的に対話する機会を設け、より一層の企業価値の向上と適正な株価の形成に努めます。

取引先

公正で合理的な方法で取引を行い、当社の生産活動のために欠かすことのできないパートナーとして、互いに尊重し合いながら協力関係を構築します。



CSR活動推進

当社では、社内LANを活用し、自社でCSRポータルサイトを作成いたしました。このポータルサイトにより個別であった各テーマの活動を一か所に集約できると共に、社員の情報共有が容易になりました。今後はこのシステムを活用し、より組織横断的な活動に努めていきます。





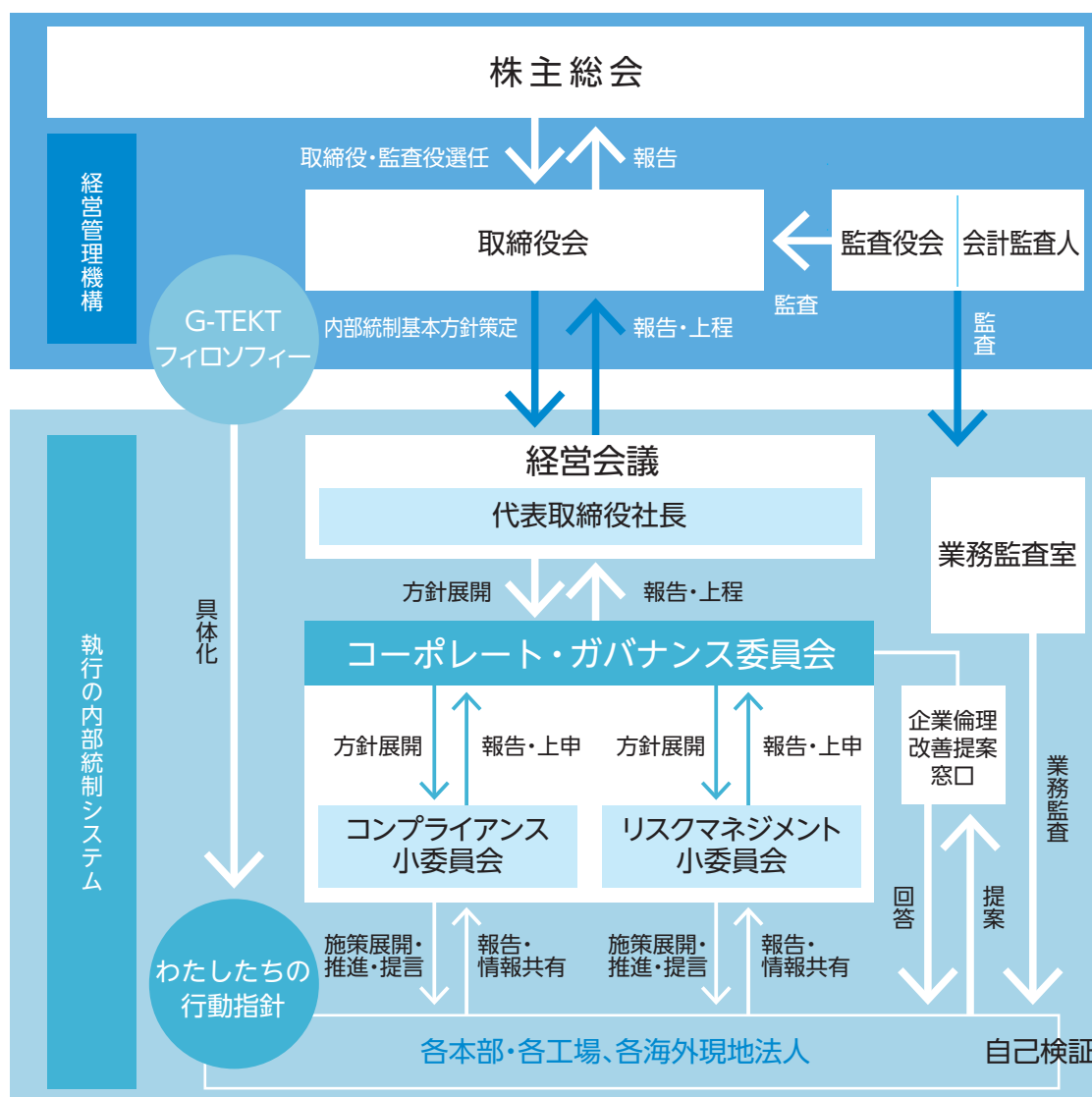
コーポレートガバナンス

事業活動の透明性を高めるため、積極的な対応と開示を心がけています。

■ コーポレートガバナンス

当社のコーポレートガバナンスの目的は、株主の皆様やお客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーに存在を永続的に期待される企業となるため、経営環境の変化に対し柔軟かつ機動的に対応し、収益性を確保しつつ、健全で適切な事業運営体制を実現

することです。G-TEKTフィロソフィーに基づく現場の業務執行の適正性を確保するため、『わたしたちの行動指針』を定めているほか、『コーポレートガバナンス委員会』や『コンプライアンス小委員会、リスクマネジメント小委員会』を組織化しています。



内部統制

法令遵守、リスク管理、業務の効率化、適正な財務報告などを目的とし、内部統制システムの充実に取り組んでいます。業務執行の適法性や効率性の確保に努めると共に、監査役会および社外取締役の意見などを参考にし、システム見直しや改善を進めています。

コンプライアンス

遵法精神の高い企業であるため、全ての法律および社内規程等を遵守し、社会規範として常に誠実な行動をとるよう心がけています。コンプライアンスをステークホルダーの期待に応えるという視点でとらえ、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動するための指針として「わたしたちの行動指針」を作成し、従業員に周知徹底しています。コンプライアンスの浸透・定着のための推進活動をはじめ、不祥事の未然防止や早期対応、コンプライアンス徹底に向けた継続的改善を行い、一層の定着を図っていきます。



「わたしたちの行動指針」

従業員の



VOICE

一人ひとりの意識向上を目指して

コーポレートガバナンス委員会事務局 法務部 金井 元

コーポレートガバナンスというと、会社全体の仕組みの話だと思われがちですが、実は、従業員一人ひとりの日々の行動がとても重要なんです。

どんなに良い仕組みをつくっても、結局それを運用するのは「人」ですから、一人ひとりが高い意識をもってしっかり取り組まないと、本当に透明性の高い健全な事業を営むことはできないと思っています。

こうした考えから、当社のコーポレートガバナンス活動では、従業員に対する継続的な啓発に力を入れ、倫理観の維持向上と遵法精神の高い企業風土の醸成に取り組んでいます。



■ リスクマネジメント

事業活動を健全に遂行していくため、経営を取り巻くさまざまなリスクを把握・分析し、適切なリスクコントロールに努めています。当社の事業運営上のリスクは多様化し、その管理の難易度は高くなっていますが、リスク状況の適切なモニタリングの確保やリスク管理に関す

る横断的な課題対応ならびに水平展開を目的としたリスクマネジメント小委員会をコーポレート・ガバナンス委員会の下に設置し、リスクマネジメント活動を推進しています。

■ 株主・投資家とのコミュニケーション



株主向け工場見学会の様子

株主・投資家への情報公開については、迅速・公平をモットーに日々の開示業務・IR活動を行っています。

また、株主・投資家の皆様に対して、ジーテクトという企業に対する理解を深めていただくためには、積極的にコミュニケーションをとることが重要であると考え、株主総会における株主懇談会や、機関投資家向け決算説明会・個別IR訪問のほか、個人投資家向け会社説明会・株主様向け工場見学会などを開催して、経営者自らが株主・投資家と対話する機会を設けています。

そのほか、当社ホームページのタイムリーな更新や、株主通信の発行などを通じて、株主・投資家の皆様にジーテクトの事業活動に対する理解を更に深めていただくと共に、株主アンケートの実施や株価情報などによって得られる当社の評価に目を向け、あるべき企業の姿を目指しています。



株主通信



IRサイト



情報管理

機密管理体制を強化し、信頼される企業風土を築きます。

情報セキュリティの目的

情報漏洩防止のための基本方針とルールを制定する事により全世界のジーテクト社員が、情報資産を守り抜く意識を高め、時代の変化に対応できる情報セキュリティ体制を構築する。

情報セキュリティの基本方針

当社の情報資産を守る為に、下記内容を基本方針とする。

- 情報漏洩のリスクを理解して行動する。
- 全世界のジーテクト社員が、場所・利用技術に関係なく、同じセキュリティポリシーの下に情報管理・漏洩防止を行う。
- 情報漏洩事例などのリスク情報は全世界で共有し、且つセキュリティポリシーに反映し、ジーテクトでの漏洩防止、再発防止に役立てる。
- 新しい情報管理・処理に関係する仕組みを構築する際は、セキュリティポリシーの考え方を遵守する。
- 社会環境の変化に迅速に呼応し、先取りで対応を行っていく。
- セキュリティポリシーは常に見直しを行う。

情報セキュリティ教育

当社の事業を運営するに当たり、各取引先様や当社自身の機密情報あるいは、社員の個人情報等、外部に漏洩させてはいけない様々な情報が多く存在しております。基本的に情報漏洩等は、社員の機密管理に対する意識低下に起因する事が大きいと考えられており、この為、情報漏洩防止に向け社員に対し機密管理に対する教育を定期的実施しております。教育方法としては、コンプライアンス研修会の一環として、情報漏洩防止を含めた『わたしたちの行動指針』の読み合わせ及び、徹底という形で実施しております。



新入社員教育の様子



安全衛生

当社で働く全ての人が、安全で快適な職場環境を構築いたします。

安全衛生方針

安全衛生活動は、企業経営の基盤であり、我が社で働く人及び地域社会の安全・健康に及ぼす影響を最小限となるよう企業活動の安全衛生を管理し、自負できる職場を目指します。

1. 安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理に努めます。
2. 職場の危険有害要因の明確化と対策の優先度を定めるリスクアセスメントを実施し、“災害ゼロ”から“危険ゼロ”の安全で快適な職場へ進化させます。
3. 全社員のみならず、協力メーカー/関係者の協力の下にコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行していきます。
4. 従業員の教育及び啓蒙活動を通じて、安全意識の高揚に努めます。
5. 安全衛生活動の実行に当たっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施します。

従業員安全講習

毎年7月に「安全大会」を開催し、労働災害、交通事故等の災害に対して過去の災害事象の振り返りを行うと共に、災害・事故ゼロに向けて意識向上を図っております。

また、従業員が災害・事故防止への意識を常に維持しながら日々の作業にあたれるよう、他拠点の事故について情報の共有、同業他社の事故事例の情報共有を図っております。



受講風景

安全教育としては次の教育を実施しております。

1. 雇入れ時の教育
2. 管理責任者に対する教育
3. 従業員教育
4. 特別教育
5. 海外出張時の安全教育

避難訓練

火災、大規模地震に備え、日頃から防災意識を高め、また、従業員の身体、生命を守るため、各拠点において避難訓練を定期的の実施しております。地域の消防署と連携し、初期消火、通報、避難の一通りの訓練を実施し、いざという時に備えております。合わせて、AEDによる救命訓練も実施すると共に、非常用食料も備蓄し帰宅困難者に対して備えをしております。



訓練の様子

安全運転講習

従業員の業務・通勤・私用すべての交通事故を防止するため、全従業員を対象に所轄の警察署と連携し、交通安全講習会を実施しております。また、心理学を応用した「運転適性検査」を実施し、適性検査の分析結果は本人に伝達し、更なる安全運転の啓発に努めております。



四輪安全運転指導者研修会に参加



お客様のニーズを満足する信頼される製品を継続的に提供します。

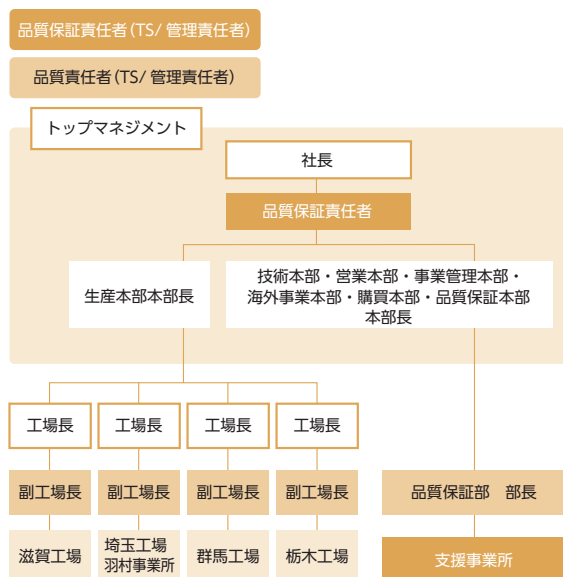
品質方針

品質至上を経営の基軸として、お客様に感動製品を創造し提供する。

品質保証体制

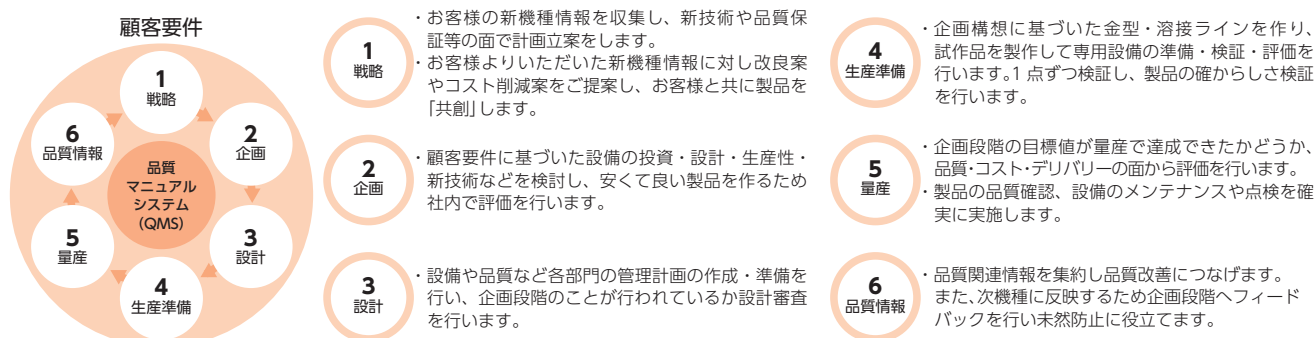
顧客を満足させる高品質な製品を作り上げる為に、G-TEKT全19拠点での「1保証体制1マニュアル」を確立しています。また各拠点が、このルールに適合することで拠点間の品質保証システムの水平展開を図ることができ、生産活動だけでなく物流まで含めた品質保証に貢献できます。

■ ISO/TS16949の国際規格に基づいた品質マネジメントシステム



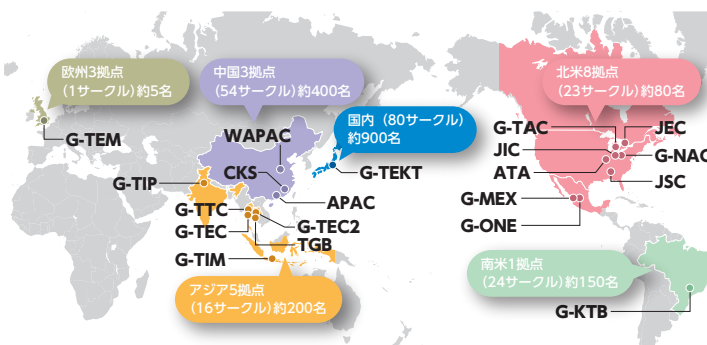
品質向上の取り組み

■ 品質保証システム



G-TEKT サークル

当社グループでは教育を目的とした小集団活動を自主的かつ積極的に行い、継続的に製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を行っております。



G-TEKTサークル世界大会

毎年秋に全世界から選抜されたサークルが日本に一堂に会したG-TEKTサークル世界大会を開催しています。全世界で改善事例を共有し、国際的な人材育成を行っています。

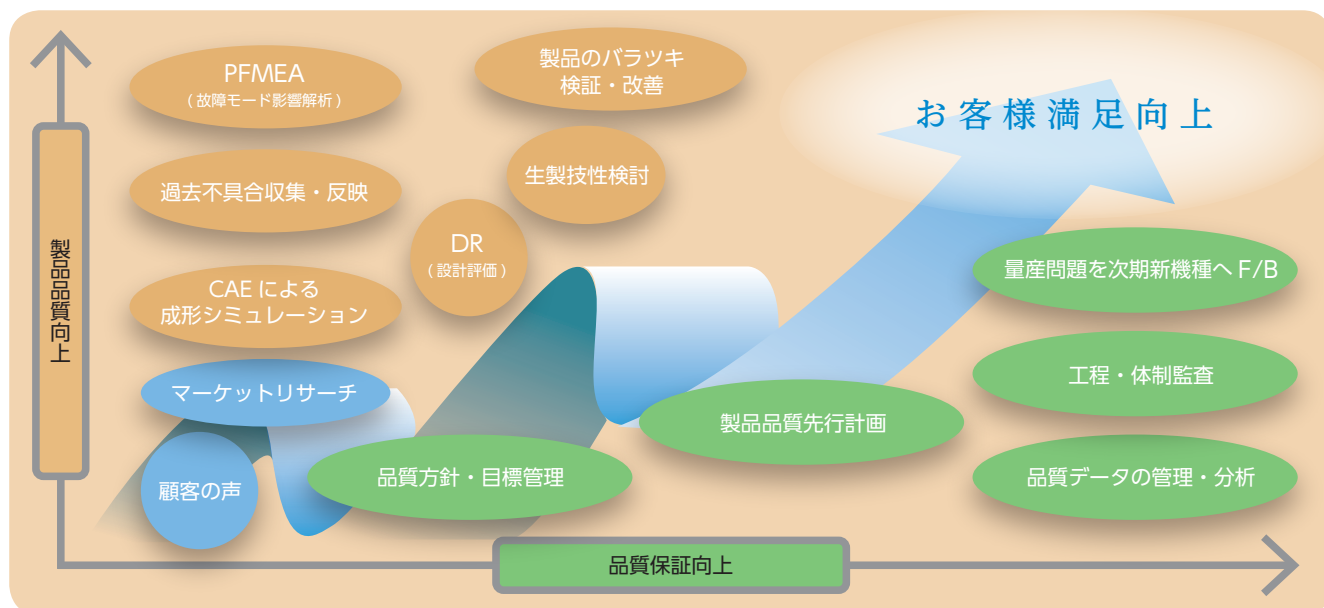


ISO/TS16949 認証取得

ISO/TS16949の要求事項を基にした品質マネジメントシステムを構築し、お客様の要求品質に応えた製品を提供できる体制を構築しております。また、G-TEKT発足以後、全世界拠点にてISO/TS16949規格での品質マネジメントシステムの構築を推進し、2015年1月時点で、14拠点の取得が完了しております。



■ お客様満足向上の方針



■ 購買・CSR 調達方針

調達先の法令遵守や環境配慮、さらに人権や労働環境への取り組み状況について取引の基準とするCSR調達に対する意識を高め、法令を遵守し環境に配慮したモノづくりの考え方をサプライヤの皆様にも共有していただく。

活動指針

1. CSR調達方針およびガイドラインの策定
2. 調達先の現状調査の実施
3. 調達先への是正・改善措置の提案及び実施
4. 調達先監査の実施

従業員の

VOICE

現場目線と第3者目線 2つの視点を持って品質保証向上を目指す

品質保証本部 品質保証課 西谷 淳

4年前に工場の溶接課から品質保証課へ異動となり、現在は生産準備段階での過去の不具合内容反映やプロセスFMEAといった品質保証向上を目的とした業務を主に担っております。そのほかにも全世界拠点の品質データ収集・分析や社内と協力メーカーに対する監査等、第3者目線で行わなければならない業務も行っているため、現場での経験を活かしつつも、第3者からの目線で判断・提案し、ジーテクトグループ全体のさらなる品質保証システム向上を目指していきたいと思っています。





人権・労働

社にある「人間性尊重」の理念を全従業員のみならず、仕事を共に進める人々や企業との関係にも適用し、公平・公正で働きがいのある職場づくりに努めます。

■ G-TEKTの目指す人材像

「自ら学び、自ら考え、自らの成長を会社の成長につなげていけるチャレンジ精神に溢れた人材」

■ 人材育成基本方針

- ① 目指す人材像に向けて社員の能力開発を図り、世界トップ水準の車体部品とトランスミッションの専門メーカーとして相応しい人材を育成する。
- ② 社員は自ら学び、自ら考える意欲と姿勢を持ち、会社は社員一人ひとりの成長を積極的にサポートする。
- ③ 階層教育と職場でのOJT及びOFF-JTとしての研修及び自己啓発からなる部門教育に加え制度化したジョブローテーションにより「学ぶ風土」「育てる風土」を醸成し、人材育成重視の文化を定着させる。

■ 従業員教育

「自ら学び、自ら考え、自らの成長を会社の成長につなげていけるチャレンジ精神に溢れた人材」に向けて、当社教育体系に則り会社の業務に必要な知識及び技能を計画的に教育し、企業目的を貫徹するに足る知識、技能、企画力、判断力をもつ人材を育成しています。

■ ダイバーシティ

当社では、ダイバーシティはイノベーションの源泉であると考え、性別・国籍・職歴・年齢・性格・価値観などの違いを「その人がもつ個性」と捉え、それぞれの個性を尊重していくことが重要としています。今後も多様な力を結集し、グローバル市場の多様なお客様のニーズに応えていきます。

■ 働きやすい環境づくり

当社では、従業員一人ひとりが能力を十分に発揮して活き活きと働き続けられる職場環境の構築に向けて、「仕事」と「生活」の双方を共に充実できる環境の整備を進めています。従業員が、心身共に健康維持を図れるよう取り組みを進めています。メンタルヘルスの取り組みとして、産業医、地域の専門医と連携しながらメンタルヘルス対策を行っています。また、労使の相互信頼を基盤として、企業の発展と共に従業員の労働条件の維持・向上と生活の安定を実現するという基本認識をベースに、徹底した話し合いを重視した労使関係の構築に努めています。

従業員の



VOICE

働く女性に寄り添って

事業管理本部総務部 労政課 森田 早枝香

合併と同時期に、営業部より入社時より希望していた総務部に異動し、今年で4年目となります。畑は違えど、私にとっての「お客様」は得意先様から社員の皆様になりました。この度、人事制度改革プロジェクトの一員に任命され、私自身が子育て中である経験を生かしながら、女性の多様なライフステージに適應し、女性社員が意欲的に働くことができる環境作りに力添えしたいと考えています。





環境

地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。

環境理念

当社は、地球環境及び地域環境の保全を最優先課題と捉え、緑あふれる地球を未来に残す責任ある一員として、「地球は我等の共通の広場なり」をスローガンに、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

環境方針

- 1 あらゆる事業活動から生ずる環境側面への影響評価を行い、自主的な改善計画を策定し、積極的な環境保全に努めます。
- 2 関連する環境法規制、その他の要求事項を遵守し、自主管理基準を設定し、環境汚染の未然防止に努めます。
- 3 環境目的・目標・実施計画を設定し、継続的な改善を行うことにより環境への負荷を軽減し、環境と調和する事業活動を目指します。また、それらは必要に応じて見直します。
- 4 環境教育や啓蒙活動を実施し、全従業員及び当社で働く全ての人への環境方針の理解と情報の周知をします。
- 5 環境情報は社外へ開示いたします。また地域や社会との交流を図り、環境保全活動に積極的に協力します。

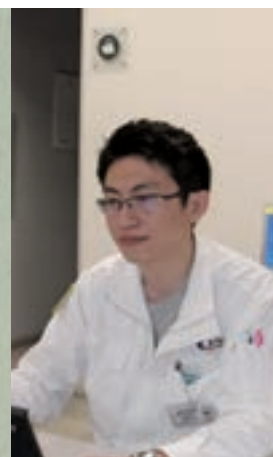
従業員の

V
O
I
C
E

素晴らしい地球環境を未来につなげられるものづくり企業へ

生産本部 環境管理課 **野間 健太郎**

私が入社した年は、ちょうどISO14001を取得した年で環境活動が盛り上がっている中、生産現場で改善に取り組んで来ました。そして、3年程前から環境事務局を担当しています。ここ数年は、グローバル視点での環境負荷削減や生物多様性取り組み等の種蒔きをして来ましたが、やっと芽吹いてきたかなという所まで来ました。引き続き、地球にやさしいものづくり企業となっていける様に働き掛け、素晴らしい地球環境を未来に引き継いでいきたいと思っています。



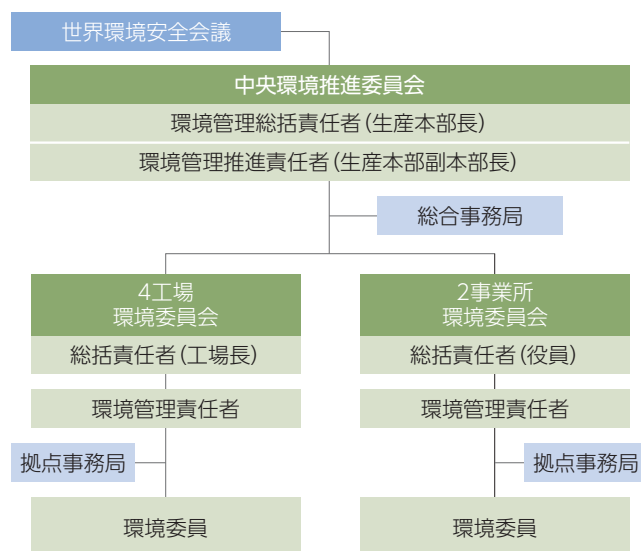
オールジーテクトでの環境マネジメント体制

ジーテクトでは、地球環境問題を企業が取り組む最優先課題として考え、国内では、1998年からISO14001環境マネジメントシステム(EMS)の認証取得を進めて来ました。各工場はISO14001EMSの環境委員会を単位として、各工場長が環境管理総括責任者を兼任し、環境のコンプライアンスや改善活動を継続的に進めています。これに本社とC&C栃木の2事業所を加え、これらの上位

組織として中央環境推進委員会を設置し、全社的な地球環境改善活動に関する事項を統括しています。

また、2014年6月より「世界環境安全会議」を発足させ定期開催し、各海外地域本部長を責任者として、グローバル全体における環境マネジメントの強化と情報共有に努めています。

ジーテクト国内環境管理体制



ISO14001認証取得状況

国内サイト	取得年月日
栃木工場	1998年12月
埼玉工場 羽村事業所1・2 羽村事務所	1999年 4月
滋賀工場	1999年 4月
群馬工場	2004年12月

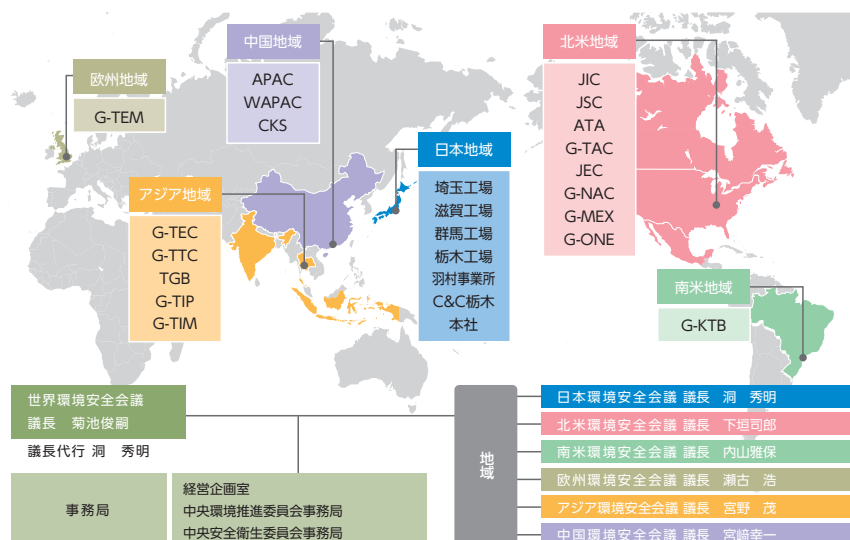


世界環境安全会議の様子

ISO14001登録証

埼玉工場
埼玉工場羽村事業所1・2
羽村事務所

世界環境安全会議



G-TEKT環境ロードマップ

環境基本理念：「地球は我等の共通の広場なり」の実現へ

環境目的を定め、目標に向けた環境活動計画に基づき、継続的改善活動を推進しています。

【2020年 Vision G4-20】

Green（環境・安全・社会貢献）

環境 / 安全に配慮した事業展開

【全社重点目標】

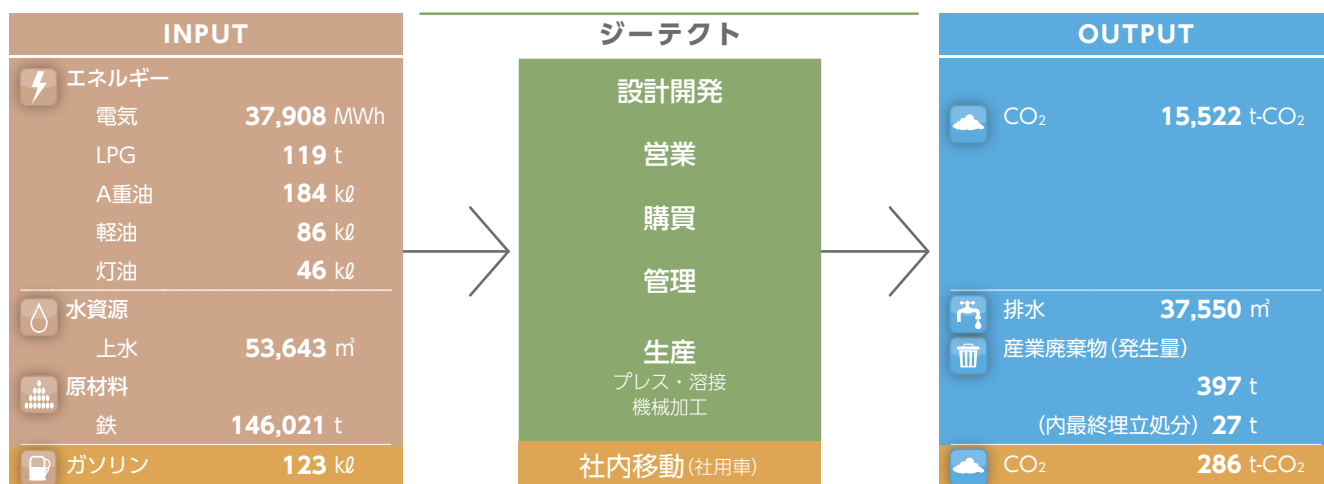
環境負荷と環境リスクの低減

【各事業所の環境目的】

1. 水質汚濁の防止
2. 工場騒音・振動の防止
3. エネルギー消費量の削減
4. 廃棄物の低減 (3R)
5. 地域社会貢献

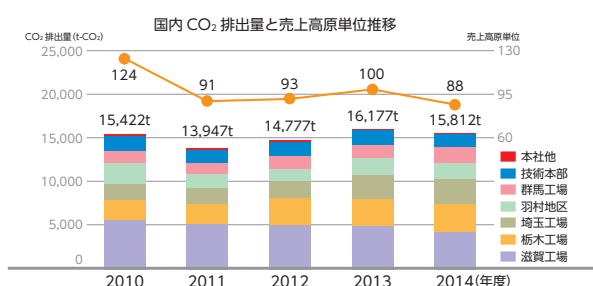
領域	内容	2014 年度			2015 年度	2016 年度
		目標	実績	評価	目標	目標
生産	温室効果ガス (GHG) 排出 売上高原単位の低減	1%改善('13年比)	12.5%改善	◎	2%改善('13年比)	3%改善('13年比)
	グローバル環境管理体制強化	・グローバルでの削減展開 ・環境データ精度UP	・世界環境会議発足 ・海外環境データシステム構築準備	◎	削減展開	継続
環境 マネジメント	騒音振動、水質汚濁、大気汚染 公害、廃棄物処理等の環境問題を 発生させない	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	環境問題ゼロ	◎	継続	継続
	ISO14001 EMS 2015 改訂版への移行	準備	情報収集	◎	システム再構築	システム移行
企業活動	生物多様性への対応	取り組み指針の策定 準備及び活動展開	・ガイドライン発行 ・活動開始	◎	活動展開	継続
	社会への発信	環境(CSR)レポート 発行への準備	情報収集及び準備	◎	CSRレポート発行	継続

マテリアルフロー（※2014年度実績値）



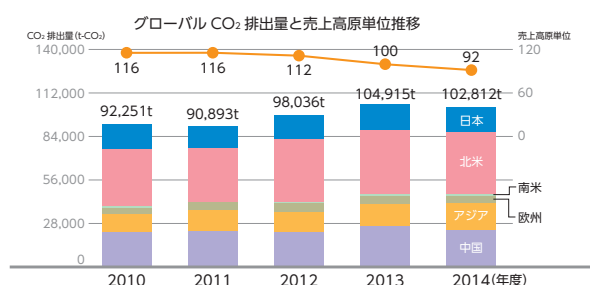
温室効果ガスの低減(国内)

国内でのCO₂排出量は、2013年度比で原単位(売上高当たり)毎年1%の削減を目標に展開し、12.5%削減となっています。CO₂排出量は365t減少となりました。



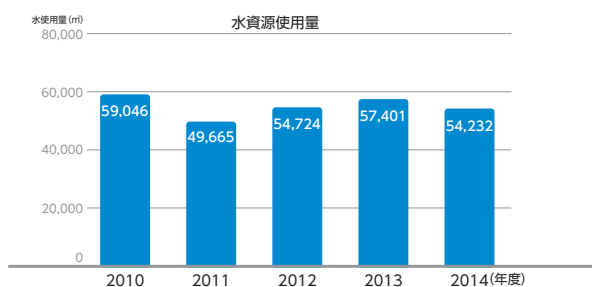
温室効果ガスの低減(グローバル)

グローバルにおけるCO₂排出量は、2013年度を基準に原単位(売上高当たり)で毎年1%の削減を目標に展開を始めました。8.4%削減となり、CO₂排出量は2,103tの減少となりました。



水資源使用量の低減

水資源使用量の低減から間接的に給水場のポンプ使用エネルギーの削減につながっています。また見える化により、構内の水道管水漏れ箇所の早期発見などにも役立っています。



環境会計

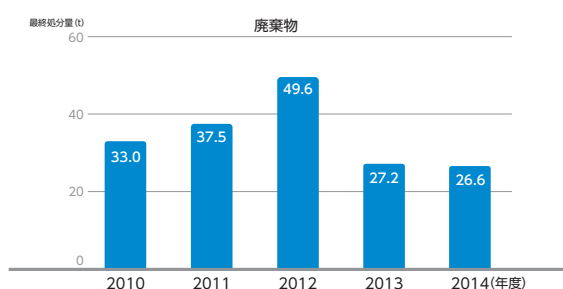
環境保全や公害防止を目的とした投資額及び費用額とその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的に測定する事により、環境経営につなげられる仕組みとして2012年度より把握を開始しています。

(百万円)

分類	2012年度		2013年度		2014年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
公害防止コスト	0	4	0	5	0	5
地球環境保全コスト	36	7	801	5	306	3
資源循環コスト	0	16	0	13	0	17
上下流コスト	0	0	0	0	0	0
管理活動コスト	0	46	0	34	4	16
研究開発コスト	1,200	7	0	27	0	0
社会活動コスト	0	0	0	0	0	1
環境損傷対応コスト	0	9	0	0.2	0	0
	1,236	88	801	83	310	42

廃棄物の低減

不要物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)による廃棄物の低減を推進しています。



廃棄物の分別(工場内)



廃棄物の分別(ゴミステーション)



環境改善取り組み

生産性の向上による消費電力の削減

製造現場では、日々の改善活動から生産性を向上させ、同じ時間で作れる数量を増やして稼働時間を短くすることにより、製造時の消費エネルギーの削減につなげています。



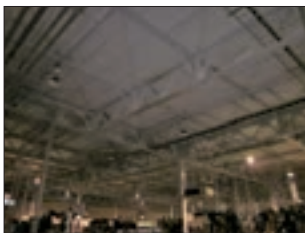
1分間に最高で33ショットが可能な
2000tトランスファープレス機



省エネタイプの溶接ロボット

工場天井照明灯の間引き消灯

工場の天井照明灯は、1灯ずつON/OFF出来るようになっており、稼働していないラインや不要な箇所はこまめに消灯することにより、電気使用量の削減につなげています。(群馬工場、埼玉工場)



工場の天井照明灯



1灯ずつON/OFF出来るスイッチ

地球温暖化対策

地球温暖化対策の取り組みの一つとして、CO₂排出量を削減できる発電という観点から、工場の屋根上にソーラパネルを設置し、発電事業を開始しました。



埼玉工場太陽光発電所



群馬工場太陽光発電所



滋賀工場太陽光発電所

【設備概要】		【設備概要】		【設備概要】	
太陽電池容量	1,605kW	太陽電池容量	1,306kW	太陽電池容量	602kW
SHARP製245W×6,552枚		SHARP製245W×3,920枚		SHARP製245W×2,408枚	
最大発電出力	1,500kW	SHARP製250W×1,386枚		最大発電出力	500kW
PCS：TMEIC製500kW×3台		最大発電出力	1,000kW	PCS：TMEIC製500kW×1台	
		PCS：TMEIC製500kW×2台			
太陽光発電		系統連系開始日		推定年間発電量	年間CO ₂ 換算量
埼玉工場		2014年3月31日～		1,576,167 kWh	595 t-CO ₂
群馬工場		2014年4月25日～		1,210,160 kWh	457 t-CO ₂
滋賀工場		2014年12月5日～		551,800 kWh	208 t-CO ₂

グリーン調達の取り組み

サプライチェーン全体での製造過程における環境負荷の低減をめざすグローバルなモノづくりを推進し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。グリーン調達は、この活動の一環として、積極的に環境保

全活動に取り組んでいるサプライヤーの皆様から、化学物質の適正使用、生態系の保全、環境負荷のより少ないプロセスを経て製品を調達することを目的として取り組んでいます。



ジーテクトの生物多様性の取り組み

ジーテクトでは、最重要課題である地球環境保全の中で、自社の事業活動が影響を及ぼす可能性のある「生物多様性」について、2014年度より「G-TEKT生物多様性ガイドライン」を定め、更なる取り組みに着手し始めました。

G-TEKT生物多様性ガイドライン

G-TEKTは、「G-TEKT環境理念」における「地球環境保全」の重要な取り組み課題として「生物多様性の保全及び持続可能な利用」を認識し、事業活動との両立を図っていきます。

重点取り組み

1. 環境先進技術の追求

業界TOPの環境負荷の低い商品開発と量産化により、生物多様性の保全に貢献していきます。

2. 事業活動における取り組み

生産効率向上の追求により環境負荷を低減し、生物多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めます。

3. 地域社会とのコミュニケーション

地域社会と連携した環境保全活動並びに社会貢献活動に積極的に協力し、地域社会との交流を図っていきます。

▲ ジーテクトの^{もり}森林づくり

未来の子どもたちに、緑あふれる地球を引き継いでいくため、森林づくり活動に取り組んでいます。

滋賀工場では2014年12月10日に「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を滋賀県、大野山林財産区管理会と締結し、2015年3月より植林活動に参加しております。

また、2015年2月4日には「^{もり}埼玉県森林づくり協定」を埼玉県、ときがわ町と締結し、2015年4月より埼玉工

場・羽村地区・本社・群馬工場の社員は、ときがわ町の弓立山にて植林や下刈り活動に参加しております。こちらは、森林火災で焼失した森を再生し、次世代へと自然環境を残して行く事を目的としています。



1 埼玉県企業の^{もり}森林づくり協定締結



2 「ジーテクトの^{もり}森林づくり」植林活動



3 琵琶湖森林づくりパートナー協定締結



4 森林火災で被災した弓立山



社会貢献

地域社会との共生で次世代へ引き継げる社会貢献を継続します。

社会貢献活動

地域社会の皆様との交流を図り共に発展して行く事も大切な事と捉え、各事業所では様々な活動に取り組んでいます。

▶ 滋賀工場

工場周辺地域のクリーン作戦活動を行っています。また、湖南甲賀地域の企業・行政で行っている環境美化活動にも参加しました。環境保全では、「鮎河の桜を守る会」に参加し、桜の木の植樹を行いました。



工場周辺地域を清掃



滋賀県鮎河の桜 記念植樹



栃木県お丸山公園 植樹活動



群馬県金山清掃活動

▶ 群馬工場

太田市内の中学生／各種団体／スバル関連企業等、総勢800名にて、太田市のシンボルとも言える新田義貞公ゆかりの金山清掃が行われ、群馬工場からも参加し、ゴミ拾いや雑草除去を行いました。

▶ 栃木工場

さくら市の「お丸山公園再生基本計画」へ参画し、桜の木を植樹しました。

▶ 埼玉工場・羽村事業所

羽村市双葉町内会と連携した「花いっぱい活動」や埼玉県の「みんなで育樹活動」に参加しました。



「みんなで育樹活動」に参加



双葉町内会「花いっぱい活動」

海外での取り組み

当社では、国内だけでなく、北米・欧州・アジア・中国・南米の各地域で、環境安全会議を実施し、環境保全活動に取り組んでいます。また、地域社会への貢献活動も実施しています。北米では、エネルギー低減施策や地域貢献活動を積極的に実施しています。欧州では、就職支援活動・福祉貢献活動・地域環境貢献活動を実施しています。中国では、省エネ・CO₂削減の取り組みを実施すると共に、社会貢献の取り組みを実施しています。南米でも、環境改善活動を積極的に推進すると共に、児童福祉施設への寄付を始めとした社会福祉活動を実施しています。

北米

OHIO&埼玉
キャリアフェア

25周年記念Family-Day

5キロマラソン大会

欧州

ごみ分別促進

不要時の消灯掲示により省エネ活動を従業員に啓蒙

中国

養老院を訪問

植樹活動を実施

街道を清掃

南米

紙オムツを
老人ホームへ寄付

従業員サンタが地元
児童福祉施設にてプレゼント

地元の川の
環境改善活動

アジア

小学校への寄付活動

地域住民との交流

チャリティラリー参加



third party an opportunity to submit

第三者意見



麗澤大学経済学部・大学院経済研究科教授
麗澤大学企業倫理研究センター副センター長
博士（経営学）

倍 和博（ばい かずひろ）

2001年麗澤大学に奉職、現在に至る。日本経営会計学会理事長、ICBM(International Conference on Business Management) Vice-President、経営関連学会評議会評議員他。2008年豪ボンド大学経営学部客員教授。著書に「CSR会計への展望」森山書店、「CSRマネジメントコントロール」「永続企業の条件：環境変化に打ち克つ5原則」以上麗澤大学出版会など多数。

株式会社ジーテクト（以下、同社）は、非財務情報の開示による企業価値の向上を目指して今年度から独自のCSRテーマを定め、その取り組みを「CSR報告書」として整理されています。CSR活動の定量化を試みるCSR会計と永続企業経営を促進する立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

車体部品とトランスミッション部品の専門メーカーである同社は、トップメッセージにおいて「自動車業界の一翼を担う責任ある企業」をスローガンに、経済的責任と社会的責任を両立させながら今後の持続的な企業価値の向上を目指し、事業活動と地球環境の保全に取り組む中長期的なビジョンを「2020年Vision G4-20」として提示するなど（p3-p4）、経営理念を価値に変える永続企業の条件に合致している点を評価します。

「ジーテクトのCSR」（p6）では、CSR活動を通じて社会と共生する姿を同社が独自に作成した「CSRポータルサイト」の活用を通して明らかにしており、同社が永続企業であり続けるために安心・安全な製品を提供するための基本姿勢や社内におけるコミュニケーションのあり方（p11-p13）は特筆に値します。さらに、「G-TEKTフィロソフィー」に基づいて内部統制やリスク管理体制、情報管理はもとより、「人間性尊重」という社是に基づく「人権・労働」への取り組み（p14）は、CSR活動の社内認知を高めており評価すべき点といえます。また、国内のみならず海外においても積極的に社会貢献活動に取り組んでいる点は、環境問題をはじめとする社会課題の解決、地域社会をはじめとするステークホルダーとの共生に向けた今後の展開が大いに期待できる内容となっています。

今後の改善に期待する点

CSR活動を通じて社会と共に持続的成長を遂げるには、事業活動とCSR活動とを両立させるためのマネジメントシステムの確立が重要となります。今回の報告書はCSRへの取り組みの記載に止まっており、CSR活動をどのような体系のもとで展開するのか、また事業活動といかに連係させるのかという横断的な取り組みについては次年度以降の課題といえます。また、グローバルな先端技術をどのように取り込むのかという点に関する記述も、今後は必要と思われます。

現在、わが国では非財務情報開示への期待が高まっており、財務情報と非財務情報とを連係させた「統合報告」に注目が集まっています。同社の取り組みをより具体的に、そして分かりやすくステークホルダーの皆様へ伝えるためにも、こうした取り組みを参考にされることを期待します。ステークホルダーとの共生を図り、永続企業として社会に貢献できる体制の確立を祈念しております。

第三者意見を受けて

経営企画室

倍先生、貴重なご意見を賜りありがとうございました。

今回、当社のCSR活動について先生との意見交換をさせていただき、評価出来る点、又今後の改善点などご指摘頂き大変良い機会となりました。これを機にCSR活動をより密接に事業活動と連係させ、企業価値向上に向けた取り組みを全社で推進してまいりたいと思います。

当社のこれまでのCSR活動を初めて報告書として整理しましたが、この報告書を通しすべてのステークホルダーの皆様が、当社の活動を少しでも理解いただければ幸いです。

今後も第三者の貴重な意見を尊重し、積極的にCSR活動を進めていき、すべてのステークホルダーの皆様との共生に努めてまいります。

株式会社ジーテクト

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20

大宮JPビルディング18階

TEL：048-646-3400(代)

<http://www.g-tekt.jp/>



この冊子は環境保全のため、FSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。